

交流人口拡大のための

連携・交流を

太田 薫 議員

総合行政を進めていく



問 本町では交流人口の拡大をまちづくりの施策に掲げている。

交流型観光の基本は施設の充実も大切だがそこに住む人がいきいきしていることである。

各まちづくり団体の活動に対する所管のバックアップはあるがその団体同士の交流は全く問題である。

縦割行政が交流を妨げているか。

また各交流施設についてもPRの一体感のなさが目立ち、所管の課の壁を感じる。参加

と協働のスローガンのもと、それぞれのアイデアが生かせるシステムの構築

が課題であるが、このような課の壁は現実にあるのか現状を伺う。

町長 我が町は島海山をはじめ海・山・平野・砂丘・歴史文化やいきいきと活躍する町民

を含め大きな観光ポテンシャルを持つ

ている町である。今後の日沿道や



役場内の連携を密に

新幹線等のハードのインフラ整備と合わせて、二次交通、ガイド、宿泊施設でのもてなし等ソフトのインフラ整備にも取り組み、交流人口の拡大に努めていく。

就任以来、町民の生活課題の解決を図るため課の統合・事務事業の見直しや、職員の意識の改革に取り組んできたが、宣伝パンフレットにしても施設や課単位で作成しており、町全体をPRする効率的なものとはなっていない。

様々な行政課題に対しては今後も関係部所プロジェクトを編成して対応し、総合行政を進めていく。